

## Inter BEE 2009

国際放送機器展 International Broadcast Equipment Exhibition 2009

2009年11月18日(水)～20日(金)〔3日間〕

2009年国際放送機器展(Inter BEE 2009)は国内外の最新の放送関係機材を一堂に集めた、音と映像と通信のプロフェッショナル展です。駒村商会では、新製品を加えた多彩なカメラサポートシステムをご紹介しました。




まずはアメリカ製の暗視スコープ、"Electro physics"(エレクトロフィジックス)社のAstroScope NightVision(アストロスコープナイトビジョン)。




←謎の箱の中身は…??  
通常撮影の方で覗いても真っ暗。でもアストロスコープを装着したカメラで覗いてみると…。



↑! ?可愛いお化けちゃん出現です!




世界70カ国以上の放送業界で導入されているオーストラリア製 "MILLER"(ミラー)三脚。もうInterBEEの駒村商会ブースではお馴染みですが、今回は特に派手! 新製品のフルードヘッド "COMPASS" シリーズも登場!




←アロー・フルードヘッドのベースに付いているのは前後左右のスタビライザー「アイソレーター」(K&L製)。カメラに装着しているのはHDVカメラにシネレンズを取付ける「ムービーチューブ」(テクニカルファーム製)です。


→!?外国人が乱入!…と、思いきや、お馴染みMILLER社社長のグランツ氏。今年も来日していただきました!




→なにやらすごい人だかりが…。と思ったら"Glidecam" (グライドカム) スタビライゼーション・システムのデモンストレーション中でした。相変わらず大人気で3日間でもかなりの方が実際に装着したとか。



Glidecam X-22システム新登場です!





←新製品のX-22をはじめ、ハンドヘルドタイプのHDシリーズなど、多くの方々に"Glidecam"をお試しいただきました。

"Schneider Optics (シュナイダー・オブティクス)" 社のCentury (センチュリー) コンバージョンレンズ。世界の光学ブランド、Schneider社が誇る高解像度のDVカメラ用コンバージョンレンズです。素早く簡単に着脱可能なこれらのコンバータはバヨネットマウント式でカメラレンズの前面に直接取付けます。



←超広角の0.3倍ウルトラフィッシュアイから2倍テレコンバータまで、多彩なラインナップをご用意。



→アメリカ、"Anton Bauer"社のバッテリーシステム。今回はリチウムイオンバッテリー「ダイオニックHC」や「ソーラー・パネルシステム」の参考出品をはじめ、DVバッテリーシステム「EZ イリップス」や、DVカメラ用ショルダーマウント「ステイシス・フレックス」など数々を展示しました。




←話題のソーラー・パネルシステム







"advas" (アドバス) 社製「ADVAC-1」。高速・高精度のコンビネーションカメラです。




←上の固定焦点レンズがワイドに、下のレンズが電動30倍ズーム搭載。小さくて目立たないコンパクトサイズ。

→会場内をモバイルパソコン上でしっかり監視OK。





ブース内を一際明るく、きらびやかに照らし出す謎の照明? 用途に合わせて形も大きさもカスタマイズできる、LEDライティングシステムSTAGE LIGHT (ステージライト) です。話題のLEDライティングで、あらゆる人や物をこの1台で「最高に美しく見せる」光源がついに登場しました!



←R・G・Bの配合を変化させることにより、広範な彩度の高い色を作り出すことができます。





これが今年の駒村商会ブースの全景です。昨年よりスペースが1.5倍大きなスペースに。お客さまもさらに増えて、賑わいのある3日間でした。